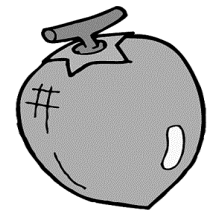


# 柿栽培技術情報（6月の管理）



令和5年5月29日  
宮城県大河原農業改良普及センター

## 《6月の管理のポイント》

6月は、炭そ病と落葉病の重要防除時期です。  
落葉病と炭そ病は降雨により感染が拡大しますので、降雨前に薬剤防除を実施します。  
特に保護殺菌剤は降雨前に防除しないと十分な効果がありません。  
注意：降雨前＝薬液が十分乾く程度の時間は必要です。

### 1 気象経過

平年に比べ4月、5月の日中は気温が高い日が続き、果樹の生育ステージは1週間から10日程度早まりました。また、一部地域では降霜があるなど、寒暖差の激しい月でした。

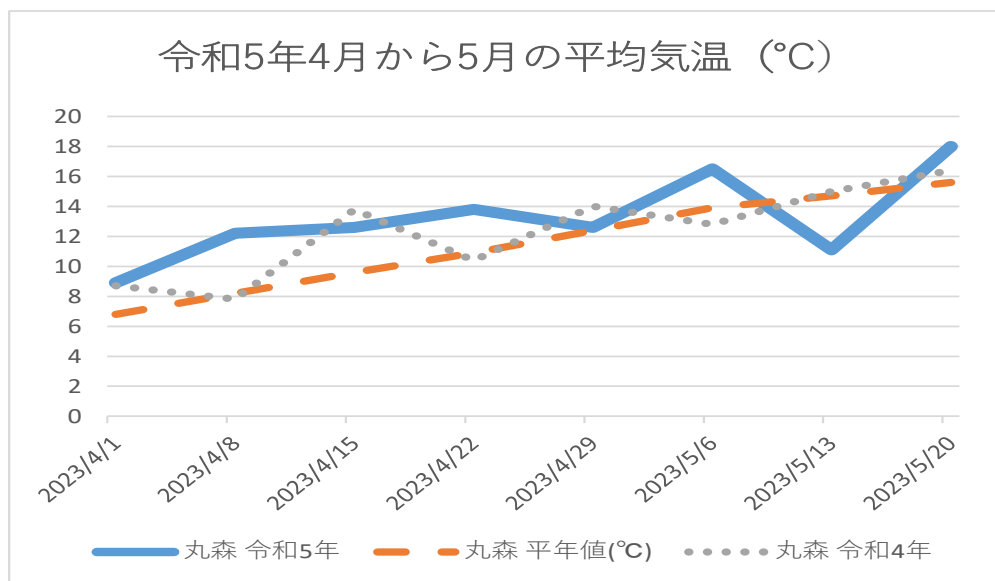


図1 アメダス丸森地点の半旬別平均気温の経過

### 2 凍霜害を受けた場合の対策

- ・被害程度を見極めて、着果管理を行います。
- ・次年度に向けた管理として、新梢の徒長と二次伸長を防ぎ、充実した結果母枝の確保、被害程度と樹勢に合わせた施肥、適切な病虫害防除を心がけましょう。

### 3 早期落果について

- ・落果の主な要因は、受精不良と栄養条件の偏りです。
- ・かきは開花後の6月に生理落果が多くなります。特に長雨の年は落果が多くなるため、生理落果の終了まで摘果は控えてください。

### 4 新梢の管理

#### (1) 目的と管理方法

- ・芽かきは貯蔵養分の浪費防止を目的とします。  
各新梢の管理方法は以下のとおりです。
- ・骨格となる枝の直上に発生した徒長枝（直上枝）や枝が伸びる方向に逆行する徒長枝（バック枝）は、早めに除去します。
- ・大きな切り口に発生した徒長枝は、切り口に近いものを数本残して整理し、切り口のゆ合を促します。
- ・弱い徒長枝は、次の年の側枝に育成することもできます。

徒長枝の種類	処理	目的
直上枝・バック枝	6月中旬までに芽かき	樹形の乱れ防止
大きな切り口付近	数本残し整理	切り口のゆ合促進
弱い徒長枝	捻枝等を行う (必要な枝の場合)	翌年の側枝育成

#### (2) 捻枝

##### イ 目的

- ・強勢になりそうな新梢の勢いを抑え、翌年の結果母枝や側枝の予備枝に使える状態にします。

##### ロ 実施方法

- ・捻枝する新梢が折れないよう節の基部をおさえながら、もう片方の手でその2～3節上をねじります。

### 5 病虫害防除

- ・今年は平年より生育が早まっているため、かきの生育ステージを確認し、遅れないように防除を実施しましょう。
- ・適正な肥培管理、通風採光をよくするなどして、発病しにくい栽培環境づくりに努めてください。

#### (1) 炭そ病



炭そ病は白石市、丸森町での発生量が多く重要な病害です。

#### イ 発生が助長される条件

・気温が 20～27℃、5 月～6 月にかけて降雨が多い時には新梢や幼果の発病が多くなります。

8 月に高温・乾燥期間が続くと一時【炭そ病の新梢病】が、気温が下がる

8 月下旬以降に降雨が続くと果実の発病が激しくなります。

#### ロ 防除のポイント

##### ・耕種的対策

被害枝や被害果は切除して、園外へ処分します。

##### ・薬剤防除

・雨水で感染拡大するため降雨前に薬剤防除を実施します。

・散布後（1～2 日程度）降雨のない日に防除すると効果が高くなります。

・重点防除時期は 6 月中旬～7 月中旬、8 月下旬～9 月下旬です。

#### (2) 円星落葉病

円星落葉病は管内での発生量が多く重要な病害です。

#### イ 発生生態

・葉だけに発病します。

・感染時期は 5 月中旬～7 月上旬です。

感染後 2～4 か月の潜伏期間を経て、

9 月上旬頃から発病をはじめ、9 月中旬～下旬にかけて急激に発病します。



【円星落葉病の秋の病斑】

#### ロ 発生が助長される条件

・6 月から 7 月の間に降雨の多い年ほど発生が多く、弱った樹で発病しやすい傾向があります。

#### ハ 防除のポイント

・予防の薬剤散布に努めましょう。

感染から発病までの潜伏期間が非常に長く、防除適期には発病が全くみられません。しかし、発病後の薬剤散布は効果が薄いため、予防の薬剤散布に努めましょう。

・耕種的対策

被害落葉は集めて土中に埋めるなど適切に処分します。（落葉処理）

・薬剤防除

重点防除時期は5月～7月です。特に6月落花期の防除を徹底します。

### (3) 角斑落葉病

#### イ 発生生態

- ・一次感染の主要な時期は、6月中旬～7月中旬です。
- ・感染後1か月の潜伏期間を経て7月頃から発病が始まり、落葉時期にかけて発病します。
- ・葉の病斑上に分生胞子がつくられ二次感染を引き起こします。

#### ロ 発生しやすい条件

前年発生が多いほど被害が拡大する傾向があります。

#### ハ 防除のポイント

- ・円星落葉病と同じです。

### (4) カキクダアザミウマ

カキクダアザミウマは若葉や果実を加害する害虫です。

#### イ 生態

- ・年1回の発生です。4月に越冬成虫が飛来し若葉を縦に巻き、その中で産卵し5月には第1世代幼虫が発生します。成虫は体長2mm程度で黒い色をしています。
- ・第1世代成虫は6月に幼果を加害し、果実に黄褐色の小斑点が輪状にあらわれます。

#### ロ 発生しやすい条件

越冬場所に適したスギ、ヒノキなど山林付近で被害が多い傾向があります。

#### ハ 防除のポイント

- ・巻葉は見つけ次第除去します。
- ・薬剤防除は5～6月に実施します。



【カキクダアザミウマ葉の被害】

病害虫名	重点防除時期	感染時期	二次感染有無	発病時期	発病部位
炭そ病	6月中旬から7月中旬 8月下旬から9月下旬	5月頃から	有	5月から6月から	葉 果実
円星落葉病	5月から7月 (特に6月落花期)	5月中旬 から 7月上旬	無	9月上旬 (発病始め) 9月中旬 から 9月下旬 (急激に発病)	葉
角斑落葉病		6月中旬 から 7月中旬	有	7月頃から落葉時期	葉
カキクダアザミウマ	5月から6月	巻葉は 4月下旬 から 5月上旬 に多く発現			若葉 果実

### 【農薬使用上の注意】

- ・ 農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認し使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。

### 農薬危害防止運動実施

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ・ 使用・販売する農薬の農薬登録を確認しましょう。
- ・ 農薬容器のラベルをよく読みましょう。
- ・ 農薬の容器を移し替えたりせず、鍵のかかる場所に保管しましょう。
- ・ 周辺環境や近隣住民に配慮しましょう。
- ・ 農薬散布作業中・作業後の事故に注意しましょう。

